



Japan Writing Instruments
Manufacturers Association

日本筆記具工業会ニュース

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-30-6

TEL 03-3891-6161 FAX 03-3802-9692

発行：日本筆記具工業会 広報委員会 2003年4月1日 006号

各委員会・部会

14年度事業を完遂

本工業会の5つの委員会と部会は、年度末を控えて活発に会議を召集し、平成14年度の年間事業計画をほぼ計画通りに実施し、同時に、新年度計画の起案に意欲的に取り組んでいます。その本年1月から3月末までの活動をここに報告します。

本工業会は総務、流通、調査研究・広報、技術、国際の5つの委員会が各担当分野の年度事業を起案し推進しています。委員会の中には専門部会や小委員会を設置し、特定分野のルールづくりや相互理解を図っている委員会もあります。各委員会の委員長には5人の副会長があたり、理事会において委員会間の報告、調整、決定を行っています。

<委員会・部会報告>

15年1月から3月までの本工業会委員会及び部会の活動を報告します。

総務委員会（委員長：横井文夫副会長） 3.25

- 14年度概算収支報告及び15年度予算案を審議した。
- 15年度活動計画について検討した。会員相互の親睦をはかるために、旅行会、ゴルフ同好会、中小企業経営研究会等の新規のプランが提起され、検討した。
- 14年度加入・脱会状況の報告。新規加入1社、脱会4社、以上が確定した。これを受けて会員増強のための方策を審議した。

流通委員会（委員長：堀江圭馬副会長） 3.7

- JANコード表示に関するアンケートについて（荒井宏明委員）。
- 単品JAN、内箱JAN、内箱ITF、中箱JAN、

中箱ITF、外箱JAN、外箱ITFのソースマーキング実施状況と今後の対応について会員調査を行った。その結果、単品JANの完全導入会社は約3割だった。未導入会社も、今後は新製品発売や仕様変更をとらえて完全導入したいとの回答が大勢を占めた。尚、取引先別でヒヤリングすると、量販店向け商品については、ほぼ100%の表示率であった。

○カタログ協賛実態調査結果について。事務局から昨年に引き続き行った実態調査結果について説明があった。

○返品に関するガイドラインについて。返品問題に関する本工業会ガイドライン（委員会案）をまとめた。今後は専門委員会「返品問題小委員会」を設置して、この問題を継続審議することを決定した。

○消費税法の「総額表示」について。消費税については当業界各社は「外税」を原則としているが、16年（2004年）4月1日から「その商品や役務に係る消費税等の額を含めた総額を明らかにすること」が義務付けられる模様で、筆記具の総額表示について検討していくことにし、「流通委員会小委員会」を設置した。流通小委は第1回会合を3月25日に持ち、小委委員長に荒井宏明氏（ぺんてる株）を選出し、税法の調査研究、異業種事例などを調査することを決めた。

○その他。環境省は、国等の「グリーン購入」の推進により、どの程度の効果が得られたか、特定調達物品の市場形成の状況を調査した。（調査資料は事務局管理）

○15年度活動計画について審議した。

<お客様相談窓口連絡会> 3.4（神田 勇部会長）

○ボールペンリフィル互換性対応表について。お客様の問い合わせに即応できるよう各社のリフィル情報を一覧にまとめることを目的に確認作業を行った。

○お客様対応情報交換の報告。

①容器包装リサイクル法に係る「識別（材料）表示」についての情報交換。

②化学物質関連のお問合せ対応の情報交換。

③消費者対応に関する自主行動基準の指針について協議した。内閣府国民生活局の国民生活審議会消費者政策部に設置された自主行動基準検討委員会がまとめた「消費者に信頼される事業者となるために—自主行動基準の指針—」をテキストとした。

調査研究・広報委員会（委員長：石川真一副会長）

3. 25

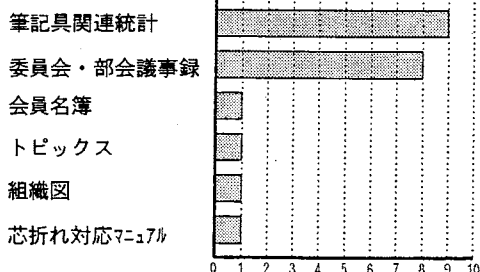
○会員のホームページ活用に関するアンケートについて。会員相互の円滑で合理的なコミュニケーションを促進するため、2月中旬から3月にかけて、ホームページ活用に関するアンケートを実施。活用の現状とコンテンツの要望をヒヤリングした。これらを今後のホームページ編集に生かすことにした。

○ジュディ・オングさんのサイングッズプレゼント。昨年12月19日、講演会にお招きしたジュディ・オングさんが本工業会に寄贈くださったサイングッズの抽選会を実施。ジュディ・オング木版画集5名、サイン本「ジュディバランス」5名、ジュディ・オング・サイン色紙5名の当選が決定した。

○15年度活動計画について審議した。

JWIMAホームページに関するアンケートから（一部抜粋）

【活用した事例】



【工業会運営に関する意見と要望】

講演会を今後も実施してほしい
統計データ中、マーキングペンの内訳を知りたい
鉛筆名入れ機の開発を工業会で行ってほしい
エコロジー商品関連の情報を知りたい
より実務的な活動を希望する
東南アジアの製品やメーカー動向を知りたい
商品に関する公的規制の新情報や変更について知りたい
中小企業会員のみの情報交換会を設けてほしい

技術委員会（委員長：西村貞一副会長） 3. 13

○本年1月25日からドイツ・フランクフルトで開催された世界最大の文具オフィス用品国際見本市「2003ペーパーワールド」についての報告。（頁3の国際委員会報告参照）

○新J I Sマーク制度についての進捗状況を報告した。

○I S O（国際標準化機構）規格の定期見直しについて。規格協会から水性ボールペン及び替芯に関するI S O 14145等の規格の定期見直しにつき通知書を受け、これを報告した。検討を担当する部会は次の通りで、検討結果を5月20日までにT C 1 0（製図製品の規格と関連文書）委員長に回答することにした。

<マーキングペン部会担当>

児童用筆記用具及びキャップの安全要求事項 I S O 11540:1993

<ボールペン部会担当>

製図用インキ、水性墨汁の要求事項と試験条件 I S O 9957-1:1992

油性ボールペン及び替芯 一般筆記用 I S O 12757-1:1998

油性ボールペン及び替芯 公文書用 I S O 12757-2:1998

水性ボールペン及び替芯 一般筆記用 I S O 14145-1:1998

水性ボールペン及び替芯 公文書用 I S O 14145-2:1998

○15年度活動計画について審議した。

<ボールペン部会>（西本 洋二部会長）2.12開催

○EWIMA（欧州筆記具工業会）に対する提案と結果報告を行った。内容は国際委員会での「EWIMA技術分科委員会会合報告」を参照。

○ゲルインキボールペンのJ I S化について。4月に原案作成委員会構成案を提出の予定。事前調査票は現在採択調査中で4月の結論を待つ。万が一、J I S化が見送られた場合も本部会は、J I S化の活動を継続していくことを確認した。

○15年度活動計画について審議した。

<鉛筆部会>（西本 洋二部会長）2.4開催

○新J I Sマーク制度について。日本文化用品安全試験所・村田政光氏の出席を得て、新J I Sマーク制度の進展状況について報告会を開いた。

○15年度活動計画について審議した。

<知的財産部会>（長岡隆一郎部会長）2.18開催後、部会員に書面審議

○中国意匠冒認出願調査について。中国で意匠登録された1560件の筆記具等に6社34件の冒認出願があることが判明した。これを受けて、1月、特許庁国際課大隈室長を訪問し、政府としての対応を要請した。

○14年度活動報告、及び15年度活動計画について審議した。

尚、I S O T 2003における模倣品防止対策はほぼ前年同様の形で行ことになった、2月21日、国際委員会の小川委員長から(社)全日本文具協会へ申し入れし、理事会にて承認された。

<シャープペンシル・しん部会>西本洋二部会長3.18

○新J I Sマーク制度について（技術委員会マーキング部会、事務用修正液部会合同部会）

経済産業省基準ユニット認証課が中心になって検討している「新JISマーク制度」(17年4月施行予定)について文化用品安全試験所・村田政光氏のから説明があった。

○15年度活動計画について審議した。

<マーキングペン及び事務用修正液JIS/ISO合同部会> 長島功典部会長 3.18

15年度活動計画について審議した。その中で、急を要する案件について以下報告する。

マーキングペンJIS/ISO部会

○17年(2005年)にマーキングペンに関するJIS S6037:2000規格を改正する場合、事前調査票を提出する必要がある。事前調査票は、年2回の受け付けであり、その時期は5月と11月である。改正についての賛否を次回の部会で募ることとした。

○児童用筆記用具及びキャップの安全要求事項に関するISO 11540:1993規格の見直しに関する通知があった。検討結果を15年5月20日までに日本規格協会に回答するため、5月初旬に会合を開いて結論を導くこととした。

○安全尾栓に関する英国規格BS 7272-2:2000についての連絡。

修正液JIS/ISO部会

○修正液に係るJISの見直しは15年度は行わないことを確認した。

○修正テープのJIS化の必要性について議論があるが、技術的には本部会の別分野の製品であるため、別の部会を設けて議論するよう願う。また、19年(2007年)の修正液に係るJIS改正に向けて、修正テープをこれに盛り込むか否かは、アンケート調査を実施し、事務局と協議しながら、15年度中に結論を出すこととした。

国際委員会(委員長:小川洋平副会長) 3.11

委員会は本工業会を代表して1月下旬にドイツを訪問、1月25日からドイツ・フランクフルトで開催された文具オフィス用品国際見本市「2003ペーパーワールド」を視察し、29日に欧州筆記具工業会EMIMA技術分科委員会との会合をもった。3月11日、それらの報告を主テーマとする委員会を行った。

○「ペーパーワールド」の印象(小川委員長報告)
本年ドイツ・フランクフルトで開催された国際見本市「2003ペーパーワールド」の出展者総数は1859社(ドイツ本国を除く)だった。我が国からは28社が出展したのに対して、アジア5カ国(中国、台湾、香港、韓国、インド)からは753社が出展、全体の約4割を占め

る勢いだった。一方、世界的な大手ブランドメーカーの出展取り止めが目立った。見本市のあり方に大きな変化が起こっている模様だ。

中国には一社で年間13億本超の筆記具を生産している企業がある。我が国の年間総出荷数量が約14億本であるのに比べて途方もないスケールである。国際市場でにわか勢力を増したアジア企業の問題、筆記具を取り巻くさまざまな規制等、これらの変化を真剣に受け止め、変化のスピードに負けずに、我が国筆記具工業も企業変革を成し遂げないと生き残れないという思いを強くしている。

○EWIMA技術分科委員会会合報告(主要部抜粋)

①ゲルインキボールペンのJIS規格化について。日本からの提案に対して、EWIMAの事務局長メラウ氏と会合出席者は賛同の意を表した。

②プラスチックと同様の成形加工ができる環境配慮の木質樹脂材料の紹介を受けた。

③玩具の安全性規格について。EUでの規制物質や玩具とみなされる筆記具類に注意を要する旨の報告があった。

④英国の安全キャップの件に関して。ペンキャップ、尾栓の英国規格が「EN71」(欧州玩具安全基準)に取りこまれる計画のある旨の報告があった。

○15年度活動計画について審議した。

尚、EWIMA技術分科委員会会合議事録は事務局が管理しています。会員は閲覧できます。

*****お知らせ*****

★中国の筆記具メーカー等が登録した意匠に関する情報がひとまとめになった「中国意匠公報」の最新版が毎月事務局に届きます。事務局が保管しています。ご自由に閲覧ください。

★万年筆・シャープペンシル・ペン先の製造業、ボールペン・マーキングペンの製造業、及び鉛筆の製造業に適用されている中小企業信用保険法第2条第3項第5号に係る「特定業種」の指定が改めて6月末日まで延長されました。「特定業種」に指定されますと、金融機関から借入をする際に信用保証協会の「特例保証」を受けられます。特例保証を含む保険限度額は、普通保険4億円、無担保保険1億6千万円、特別小口保険2,500万円です。(お問い合わせは事務局まで)

★本工業会総会のお知らせ

「第2回通常総会」は5月20日(火)午後5時よりです。例年の通り、総会終了後に懇親会を実施します。会場は上野精養軒です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2002年【年間】平成14年
1月～12月の出荷・輸出・輸入

繊維・生活用品統計（国内向け販売と輸出向け販売を含む）

（金額は百万円）

出荷	単位	2002年・年間		2001年・年間		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量%	金額%
ボールペン	千本	1,414,305	71,364	1,530,584	76,077	Δ 7.6	Δ 6.2
マーキングペン	千本	737,582	39,491	751,970	40,571	Δ 1.9	Δ 2.7
シャープペンシル	千本	272,846	18,489	287,368	19,810	Δ 5.1	Δ 6.7
鉛筆	G	2,735,985	8,709	2,779,782	9,201	Δ 1.6	Δ 5.3
シャープしん	千本	3,662,027	6,873	3,820,390	7,069	Δ 4.1	Δ 2.8
クレヨン・パス	千本	120,837	1,731	128,376	1,873	Δ 5.9	Δ 7.6
水彩絵の具	千本	65,385	2,676	70,278	2,942	Δ 7.0	Δ 9.0
修正液	千本	59,875	5,481	62,285	6,185	Δ 3.9	Δ 11.4
修正テープ	千個	78,113	7,986	—	—	—	—
合計金額			162,800		163,728		(Δ 5.4)※

※の変動率は目安です。修正テープを除く8品目総額の前年同期比です。Gはグロス（144本） 2002年の数量・金額は年報等と若干異なる場合があります。

◎02年間の統計が確定した。出荷は全分野で前年を割った。金額の前年比はマイナス5.4%、数量を算出するとマイナス3.8%だった(修正テープを除く)。しかし、01年の前年比が金額でΔ11.6%、数量でΔ8.3%だったことから、減少傾向にブレーキをかけた結果になった。公的統計としては02が初年度になった修正テープは、9主要品目中第5位の出荷高を確保した。輸出はほぼ前年同様の出来高だった。また輸入も1%台の伸びに抑えたことから、我が国メーカーが内外の国際競争の下で優位を勝ち取っていることを物語った。

◎品目別で見ると、出荷には大幅な変動はないものの、輸出で8割増を達成したクレヨンの健闘が目立った。一方、しんと鉛筆の輸入が懸念される。しんは昨年の約2倍が流入した。また鉛筆の輸入も昨年の4割増と変わらず増加傾向にある。ところが、金額の前年比は一桁増であることから、一層単価が下落している様子がうかがえる。

◎02年間の国内消費力推定は「マイナス6.7%」で、前年のマイナス5.0%と同じ傾向だった(数値は完成品の出荷額から輸出額を除き、輸入額を加えた前年比)。

日本貿易統計

（金額は百万円）

輸出	単位	2002年・年間		2001年・年間		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量%	金額%
ボールペン（油性）	千本	301,847	11,177	1,077,865	45,266	Δ 3.2	Δ 2.3
ボールペン（水性）	千本	741,054	33,035				
マーキングペン	千本	327,411	14,157	314,159	13,819	4.2	2.4
シャープペンシル	千本	188,674	8,868	193,878	9,546	Δ 2.7	Δ 7.1
万年筆	千本	5,243	751	4,997	610	4.9	23.1
以上のセット品	千S	1,148	152	980	157	17.1	Δ 3.2
鉛筆	G	482,210	429	275,413	439	75.1	Δ 2.3
補足：鉛筆（重量）	kg	172,744		171,326		0.8	
シャープ用しん（鉛筆しんを含む）	kg	505,849	3,034	538,573	3,642	Δ 6.1	Δ 16.7
クレヨン	kg	65,070	198	37,605	110	73.0	80.0
			(小計71,801)		(小計73,589)		
ボールペン用中しん	千本	217,431	3,287	209,536	2,987	3.8	10.0
マーキングペン用ペン先及びニブポイント	千本	3,830,233	6,221	3,667,421	5,968	4.4	4.2
シャープ部品・付属品	kg	146,144	753	195,251	1,037	Δ 25.2	Δ 27.4
万年筆及びボールペンの部分品	kg	1,263,889	4,344	1,050,388	3,758	20.3	15.6
合計金額			86,406		87,339		Δ 1.1

Gはグロス（144本）

日本貿易統計

（金額は百万円）

輸入	単位	2002年・年間		2001年・年間		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量%	金額%
ボールペン	千本	197,275	6,008	162,307	5,906	21.5	1.7
マーキングペン	千本	188,025	2,499	190,804	2,253	Δ 1.5	10.9
シャープペンシル	千本	37,024	1,170	27,957	1,162	32.4	0.7
万年筆	千本	837	849	925	1,160	Δ 9.5	Δ 26.8
以上のセット品	千S	2,331	190	2,067	215	12.8	Δ 11.6
鉛筆	kg	1,830,099	1,229	1,274,601	1,125	43.6	9.2
しん	kg	289,891	309	152,186	272	90.5	13.6
パステル、チョーク	kg	1,266,314	639	1,173,853	600	7.9	6.5
			(小計12,893)		(小計12,693)		
ボールペン用中しん	千本	46,171	423	29,014	322	59.1	31.4
ペン先及びニブポイント	千本	114,806	190	148,416	211	Δ 22.6	Δ 10.0
ボールペン又はシャープの部品	kg	612,259	1,601	516,876	1,589	18.5	0.8
ペン軸、その他部分品	kg	100,147	246	95,770	258	4.6	Δ 4.7
合計金額			15,353		15,073		1.9

(鉛筆重量を本数に換算する目安：0.7kg=1グロス)